



にしまつ さちこ
西松 幸子

**質
問**
QUESTION

歯を失う歯周病、メンテナンスで寿命を長く

**回
答**
ANSWER

セルフケアの周知、啓発に努めます

[福祉課長]

**質
問**

歯周病は自覚症
状が少ないため、

来院時、すでに歯を支える歯槽骨がほとんどなくなっていることがあります。歯周病・虫歯にならない状態を長く維持していくためには、メンテナンスに取り組むことが重要となります。歯科検診による早期発見と治療が必要です。

当町の保健センターでは、18歳以上39歳以下の人と40歳、50歳、60歳、70歳になった人に歯の検診の案内をしています。胃がん検診や大腸がん検診と同じように、歯科検診も



歯科検診を受ける児童（名森小）

申し込みができるようにしていただけないでしょうか。また、歯周病により歯を失うと、認知症や骨折を起しやすいため、歯の本数維持が転倒を防ぐことの周知と取り組みをお願いいたします。

以上のことについて、福祉課長に伺います。
当町では、妊婦から高齢者を対象に指針に沿った検診を実施しています。現在、国では40歳以上全体的な人を対象とした歯科検診の指針はありません。「自分の歯は自分で守る」というセルフケアの重要性の周知啓発に努めていきます。

国や県から詳細な通達があり次第、検討していきたいと考えています。

国保新聞により、厚労省が市町村国保の保健事業の充実を推進する「ヘルスアップ支援事業」を創設する案を示しましたので、実施に向けて検討していた

**質
問**
QUESTION

口腔崩壊の実態が明らかに

**回
答**
ANSWER

口腔衛生の向上を図って
きます

**質
問**

2016年学校歯科治療調査に
よりますと、回答の

あった200校で検診
後の医療機関への未受

診率が、小学校で35・

6%、中学校で半数超

えでした。口腔崩壊状

態があるとした小学校

は28・5%、中学校で

は25%でした。

寄せられた事例では、

「就学時健診時から多

くの虫歯を抱え、生え

かわるからとの理由で

残根状態のまま放置し

ている」、「歯科治療

に対する恐怖心が強い

」、「ひとり親家庭、

共働きなど、親の就労

環境により連れて行け

ない」、「休日も親の

状況なのか伺います。

今回の調査結果から、
児童、生徒を取り巻く
養育環境が大きく関
わっていると思います。

[学校教育課長]

当町では、どうい
う状況なのか伺います。

歯科検診後の未
受診率は、小学
校が28%、中学校が
66%と中学校でかなり
高くなっています。「口
腔崩壊」にある児童生
徒は、0・07%とごく
わずかに存在しました。
口腔の健康づくりは
「保健だより」等を通
じこれからも継続的に
取り組んでいきます。